



“大学生の学習方法は多様化している？”

筆者は、大学で研究と教育に日々明け暮れていますが、新型コロナウイルスの流行以降のここ数年で気づいた学生の2つの変化について書きます。

1つ目は、授業で使用する資料やレジュメのプリントを取りに来る学生が徐々に減ってきたことです。特に2022年度は残部の増加が顕著で、非常に勿体無いと感じました。2020、2021年度は新型コロナウイルス感染症対策で、プリントをPDFファイルで学生に配布し、在宅学習を行っていたので残部の増加はあまり気にしていませんでした。しかしながら、2022年度は授業への出席を求めていますでしたが、それでも配布プリントの残部は多いままです。

そこで何人かの学生に聞いたところ、かなりの人数がレジュメなどのプリントはiPadなどのタブレットで閲覧していると教えてくれました。さらに一部の学生は、タブレットにタッチペンでメモ書きするため、ペーパーレスで学習しているようで非常に驚きました。私自身は、タッチペンというと携帯電話の契約の際に使用しましたが、ペン先が太いうえに、認識が悪く、綺麗に文字を書くことができず不便に思って以降試してもいませんでした。ですが、知り合いに聞くとペン先は細いし十分使用にたえるようで、もう少し技術の進歩に対して敏感にならないといけないなあと思い知らされました。いまはまだそれほど普及していないと思いますが、研究における実験ノートの電子化も進んでいくのでしょうか（いまのところ周りの研究室では、実験ノートは手書き、消せない筆記用具が基本なところが多そうですが）。

サステナビリティが意識される現代においてペーパーレスで学習や研究ができることは良いことなのでしょう。し

かしながら、自分の脳の情報処理においては、いまのところ紙媒体は手放すことができない状態です。文章を書く作業は、当然パソコンを用いて行っていますが、文章の校閲や論文の査読の際には、印刷物で確認しないと誤植を発見できなかったり、修正点が思い浮かばなかったりします。おそらくパソコンの画面から読み取るとなぜか記載されている情報は正しいと無意識に思い込んでいるのでしょうが、誤字脱字すら見出せないのに、なぜか印刷物で確認すると出てくるのですよね。同じような方がいらっしゃるのか自分が比較的めずらしいのかわかりませんが、ペーパーレスに対応できる方法を教えていただけるとありがたいです。

2つ目は成績上位者の学習方法の変化です。これまでの成績上位者は授業の出席率が高く、質問にも良く来るため、ほぼ顔と名前が一致していましたが、ここ数年は顔が思い浮かばない学生が増えてきました（マスクの影響もあるのでしょうか）。このことについても学生に聞いてみると、授業に出るよりもオンデマンドで視聴した方が集中できるといっている学生が一定数いるようです。コロナ感染症対策として、授業のオンデマンド配信が学内で始まったのですが、当初はオンデマンド配信向きに授業内容やスライド等を修正する必要があり非常に面倒でした。しかしながら、学習方法の多様性を確保してあげることが学生の利益に繋がっていきそうで、今となっては、授業のオンデマンド配信を始めたことは良かったと思っています。ただ授業を行う立場としては、学生には教室で聴講して貰いたいのです。実際、学生の反応を見ながら、どの程度詳しく説明するかなどを決めていきますし、なによりこちらのモチベーションが聴講者なしとは大きく異なります。ですので、授業を聴いた後、オンデマンドで復習をして貰えるとありがたいと思っていますが、授業をされている先生方はどう思われますか。

本年度も学生の変化を楽しみつつ、学習や研究のサポートをしていこうと思います。

(いしがきもち)